

平成26年度第2回「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：創業による地域経済の活性化
- 2 日時：平成26年7月23日（水）14：00～16：00
- 3 場所：ピュアリティまきび
- 4 参加者：県内の創業5年以内の企業経営者 8名
- 5 知事挨拶

新しく事業を起こすことなしに、地域の活性化は難しいと考えている。というのは、変化する社会の中で、求められるニーズも変化しているので、10年前のものでは、足りないものもある。そこで創業者の方々が、足りないものをビジネスチャンスとして、そのギャップを埋めていくからこそ、世の中に良い流れが生まれると考えている。今日は、皆様方が創業に当たり、こういったご苦勞をされたか、現在の課題、これからの夢などを伺っていきたい。

6 発言内容等

- ・ Uターンして創業したが、知人が少なかったため、情報がなく、特に店舗を構える物件を手に入れるのに困った。
- ・ 創業時の資金繰りに一番苦勞した。また、創業時に使える補助金などの情報を創業後に知った。創業を目指す人達へ、創業に係る補助金等の情報提供をもっと行ってほしい。
- ・ 農業支援の間口を広げてほしい。ピオーネやマスカットを栽培する際は、県や農協からいろんな支援メニューがあるが、ワイン用ぶどうの場合は支援がない。これから可能性のある果物についても、支援を行って欲しい。そうすればもっと新規就農や農業人口は増えると思う。
- ・ 果物の栽培、加工を行っているが、農地は1年間通じて手入れをする必要があるため人件費が莫大にかかる。
- ・ 農業者の高齢化に対して、若者の新規就農を促し、地域の活性化を目指しているが、休耕地の売買要件の緩和などをしてほしい。
- ・ 役所の方と信頼関係を築いていっても、人事異動でまた一からというケースがある。最初は知識もないため、頼ることもできない。
- ・ 街づくりは正解がないから難しい。県や市からもいろんなアドバイスがほしい。
- ・ 林業が盛り上がってきているので、県外から西栗倉村への移住の希望がある。しかし、住む家がない。空き家はたくさんあるが見ず知らずの人には貸してくれない。不動産会社も無いため、どこに聞いていいかもわからない。受け入れ体制を整えてほしい。現在は、家が無いので移住を断っている。
- ・ 補助金で左右されるくらいの事業であれば、最初からやらないほうがよい。補

助金ありきで始めた事業は失敗する。

- ・ 海外の企業は学生のインターンシップを使い、一緒に事業を行うが、日本のインターンシップはコピー作業等、雑用が多く、有効に学生を使っていない。
- ・ 独立して毎日大変ではあるが、楽しい。
- ・ 岡山市内の飲食店では、イオンモール開業の影響で人材確保を懸念している。駅前と表町の回遊性をいかに高めるかなど、行政のほうも頑張っているが、我々事業主も個々の店舗のブランド力を上げ魅力アップしようと頑張っている。
- ・ 他県の街づくりの事例で、行政が大胆な規制緩和をし、仕組みをつくり、民が事業を行ってうまくいっているケースがある。
- ・ 子供達に夢を見させるように、子供達が将来のなりたいものの選択肢の一つに入っていけるように頑張っていきたい。

7 知事のまとめ

- ・ 会社を登記する時に、創業支援情報を伝える仕組みを作れば、情報が行き届くかもしれない。
- ・ 岡山県へIターン、Uターンしていただく方を、歓迎されていないという気持ちにはさせたくない。
- ・ 事業も軌道に乗ると黒字化するが、最初の一步、例えば資金とか人材とかここは何か手助けが必要なのかもしれない。
- ・ 日本の創業率が低いのは残念だと思う。意欲を持って前向きに取り組む人が出てきてほしい。そして成功事例を増やして、それを追いかけるような人がどんどん出てくるように良い循環を作っていきたい。
- ・ 経営のアドバイスは、実際に経営をしている方からのアドバイスがよいと思っている。皆様が成功して、後輩にアドバイスできるようになれば嬉しい。
- ・ 今あるものを維持することも大切であるが、世の中が変化しているので、新しく必要とされているものに対して、新しいサービスを提供することによって社会がよくなっていく。
- ・ 民間企業、特に若い会社は、周りから価値を認めてもらえないと事業がまわっていかない。逆にいうと、事業をしていること自体が社会の役に立っているということになる。
- ・ 物事があるべき姿になってないということは、ほとんどの場合ビジネスチャンスとなっている。皆さんが新たな価値を見だし、困っていることをビジネスチャンスとして、新たな視点で解決していくことを願っている。
- ・ 社会のための事業を行い、世の中の皆様から認めてもらい、ぜひ大きな企業になってほしい。